

初夏

さわやかな青空の下、野良では病虫害防除の散粉機が初夏のリズムを奏でる季節である。

今年は害虫の発生密度が低いと

いうことで、わが

南国市

の空中防除

計画は見送られた

が、青いじゅうたんの中に点在する

褐色の綿模様が害

虫の発生源と考え

られて、なんとし

ても気掛りなこの

頭である。それらの休耕地も害虫の防除をやることが奨励金支給の一つの条件とされているが、しかし、殆んどの農家が休耕に踏み切った動機は、国策にそうためではなくて、人手不足のために余儀な

く国策に便乗したに過ぎないのであって、かかる人手不足の故に余儀なく生産を放棄した農家が、その不毛の土地に何回も防除をやるなどの余裕があるとは考えられないし、またその実行の有無をだれが正確に調査するのか、栽植した農家も同様に労力不足に喘いでいる現在、絶対多数の農民が空中防除を希望していることを、当局者は記憶に置いて頂きたいものである。

初期の治療の中心は、食事と運動、と思います。食事は、総カロリーのみでなく、糖質、脂肪、タ

ンパク質、なども制限され、その割合についても一日どれだけと決められた、気長の食養生が必要です。

そうかと云つて何ヶ月も入院してもたまらない、そこで普通の生活をしながら、出された食事を見て、すぐこれは何カロリーで、糖分は余分だが、野菜はもっと必要とか暗算でコントロールできるよう

なければならぬ、糖尿病で入院すると、良心的な病院は必ず、まず糖尿病とは何か、そのためにはどんな食事をしたらよいか徹底的に教育されます。

むかしは、重複病といわれた病期のうちなら仕事と治療が両立させられることを知る人が少ないよう

です。近、若い人や、三食ひるねつきの主婦、あるいは、小児にまで、及ぼして来ました。

お

もうす

みんなの声、意見をお寄せください。

〔六百字以内〕

十市農夫

は特別事情の年であるし、実に病害の発生は天候に支配され勝ち、いつ大量発生するとも限らないので油断は禁物である。

糖尿病とビジネス

とです。

あまりごちそうをたべないこ

と、乗物を出来るだけ使用せず、

たとえば人を呼びつけず、こちらから出向いて行くと言つふうに、

体を動かすチャンスを細大もらさず利用することが一番大切です。

一方文明病であるこの病気を防ぐには、文明の利器を使わないこ

5・6月中に届け出のあったひろいものはつぎのとおりです。
心あたりの方は、ご遠慮なく署で確めてください。地名は拾った場所です。



糖尿病食事療法の献立例ご希望の場合は広報委員会までお申出ください。



南国署

〔5月〕
1日 朝日町 現金
2日 十市 洗剤
4日 後免西町 自転車
10日 岡豊 財布

11日 立田 財布
12日 改田 現金
12日 堀豊 腕時計
16日 大岡植 テープレコーダー
18日 自転車

〔6月〕
22日 里改田 布
23日 松生 布
24日 下稻 金
26日 松白 車
29日 谷時計

2日 後免町 現金
4日 堀町 自転車
7日 大中バイ
7日 大中バイク